

4R1Z 合同会報

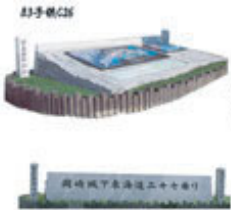
2010年11月号

No.375

通巻567号

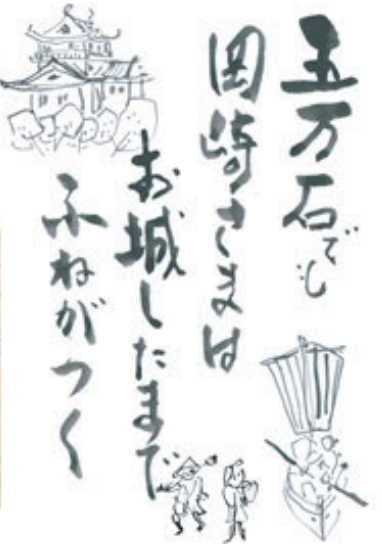
Joint

Report



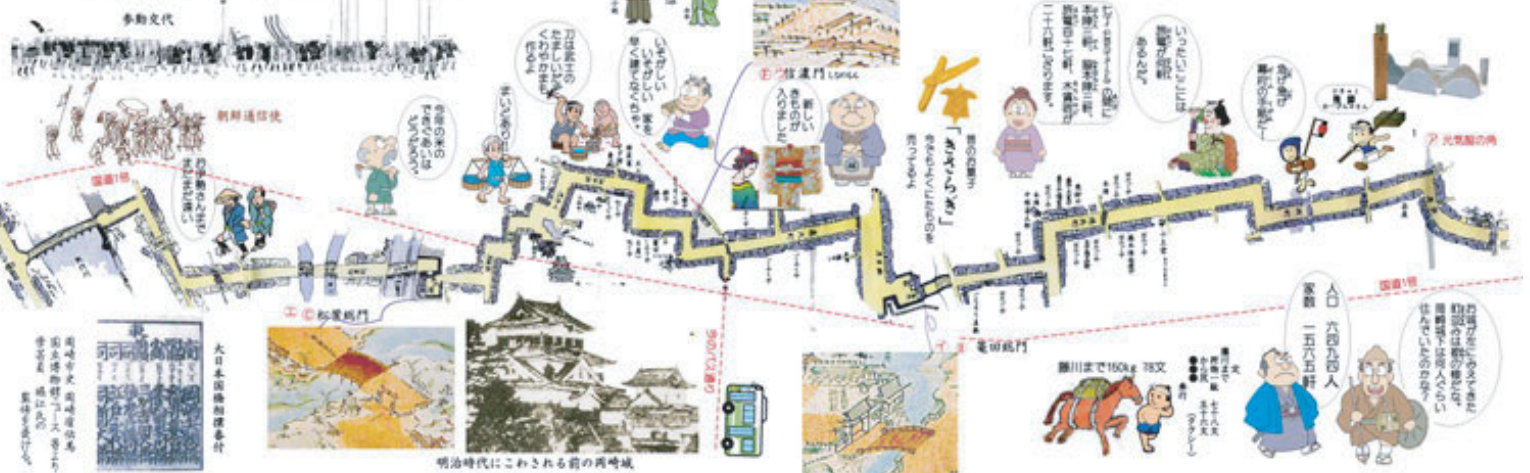
絵図を見て歩こう 岡崎城下東海道二十七曲り

下の絵図は江戸時代の後半、幕府が直接発注して作らせた東海道の地図です。六年間もかけて、江戸から京都までを正確に測量し、1/1800 に縮めてかき、九十一巻の折りたたみ式の絵地図に完成したのです。宿場名や木戸門・本陣・脇本陣・高札の場所が書き入れています。また、沿道の村名、村と村の境界を示す杭、関所は 물론、街道から見える景色がかかれ、山、川、橋や寺、神社の名、一里塚の位置、次の宿場までの距離も記しています。岡崎城下の東西の出入り口にあった、藤田前門・松葉前門を拡大してみたところ、門構えのわかる絵が浮かび上がってきました。この絵地図は、現在、国の重要文化財に指定され、東京国立博物館に保管されていますが、【岡崎市図書館交流プラザ3F】でもその、写しを見ることが出来ます。岡崎城下の丸跡の「大手門」前に、この絵図を写した大きな石碑があります。



寛政2年(1790)の地図 さて曲がり角はいつ!

町角を多くしたのは城を守るためですが、町角みを無くして真直道にがむようことを考えたようです。



We Serve